第20号
October 2018

いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium

NEWS LETTER

～岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

Index

■ ご挨拶 1

■ トピックス 2～4

□地域リーダー育成プログラム「地域を担う中核的人材」認定証授与式

□地域課題解決プロジェクト：さんてつ活用推進チーム

□地域課題解決プロジェクト：西和賀地区活動

□地場産業・企業論／企業研究

□いわて学Ⅰ

□グローカル基礎研修

□ボランティアとリーダーシップ

□駅前講義

□全人的医療基礎講義

□ FD・SD 研修会 テキストマイニング入門

いわて高等教育コンソーシアム詳細
http://www.ihatov-u.jp/

ご挨拶

一関工業高等専門学校
校長
吉田　正道

『高専力』を活用した地域貢献

日本の高等教育機関の中で、高等専門学校（以下、高専）はどの程度のボリューム感なのでしょうか？

一口にボリューム感といっても、全在学生数や卒業生数、あるいは教員数など切り口はいくつかあると思いますが、ここでは、1学年当たりの在学生数で俯瞰してみます。平成30年度統計では、大学および短期大学1年生の学生数は、おおよそ60万人程度、その中で高専は同年齢（高専4年生）の学生がほぼ1万人ですので、約1.6%のボリューム感ということになります。かなり、マイナーな印象です。高専の社会的知名度が今一歩なのは、このボリューム感にその一因があるのかもしれません。

しかしながら、技術者養成に直接関連する学部・学科に絞ると、大学・短大1年生の学生数は10万人程度になり、高専はほぼ10%を占めることになります。非常にざっくり言えば、日本の技術者の中の10人に一人は高専卒業者ということです。少なくない感じになりました。つまり、技術者の世界では、高専のボリューム感は一定程度の存在感として認知されていると言えるでしょう。

さらに、高専の存在感を際立たせる特色を見てみましょう。高専（専攻科も含む）卒の技術者は5ないし7年間の特別な実践技術教育を受けていますから、その間に身に付けた圧倒的な実践力に裏打ちされた現場問題の即時解決能力においては、群を抜いていると思います。この資質が産業界において高専の存在価値を認めていただいている要因であり、また、高専技術教育の大きな特徴の一つです。

もう一つは、教員と学生との距離感でしょうか。高専の場合、学校生活全般において、学生と教員が相まみえる時間がかなり多く、いわゆる「師弟の和熟」が自然に形成される環境にあり、遠からず、近からずの絶妙な距離感の師弟関係が築かれています。これは、高校あるいは大学では為し得ないものであり、この教員と学生との一体感覚が何事かを為すときの推進力になっていることも高専ならではの特徴と思います。「高専ロボコン」などはこの特徴をよく体現しているイベントの一つです。

上記2つの特徴を一口で『高専力』と呼ばせていただくならば、「いわて高等教育コンソーシアム」の主要目的である「人材育成を通した地域貢献」に、『高専力』を最大限に活かすことで、その一員としての責を全うしていければと思う次第です。コンソーシアムを構成する団体はそれぞれの異なる特色（文化）を有しており、うまく連携させれば、相乗効果を生み出し、効果的なプロジェクトを推進・継続していくことができるものと考えます。得意なことを行うときは、負担感は少なく、積極的に取り組めるものです。そのためには、構成団体がお互いの特色をよく理解し、尊重しながら協同してコンソーシアムとしての活動を作り上げることが肝要かと思います。

最後になりましたが、今後も本コンソーシアムの一員として、一関高専の特色を活かしながら、地道ながらも継続的な地域貢献ができればと願っております。

地域リーダー育成プログラム
「地域を担う中核的人材」認定証授与式

平成27年度から開始されている、いわて高等教育コンソーシアム「地域リーダー育成プログラム」では、平泉や賢治らに育まれた共生の思想(人と自然との共生、万物の共生)を尊び、地域全体を思いやるリーダーとして、コーディネート力を備え、多様な領域・局面で地域の中核を担う人材の育成を目指して各種プログラムを展開しております。

当プログラムは、いわてコンソ連携校(単位互換協定校)の学生を対象にしたもので、あらかじめ指定された地域課題や復興に関わる科目(コア科目)の必要単位(4科目8単位以上)を修得し、さらに地域の課題解決策を学生たちが主体的に考え実行する「地域課題解決プロジェクト」を遂行したうえで、審査に合格した学生には、「地域を担う中核的人材認定証」が授与されます。

今般、プログラム開始以降3人目となる「地域を担う中核的人材認定者」が決定し、コンソーシアム連携校の学長、校長及び所長同席のもと認定証授与式が執り行われました。

●認定証授与者●

岩手大学農学部生物産業科学コース4年　大宮 美緒さん

●認定証授与式●

日時：平成30年9月28日(金) 11時30分～12時00分

場所：岩手大学事務局棟2階　第一会議室

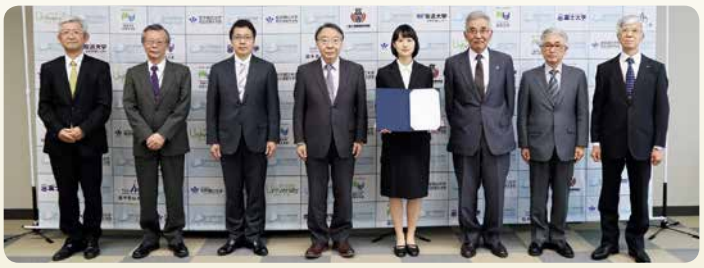
●認定学生の紹介●

このたび、地域を担う中核的人材に認定された大宮さんは、平成27年度地域課題解決プロジェクト「久慈市の魅力を全国へ ～肉鉄を走らせよう～」に参加し企画立案に携わりました。地元久慈地域の高校生とともに企画した三陸鉄道企画列車の案は残念ながら実現には至りませんでしたが、この経験を糧に翌年度、三陸鉄道の魅力発見、利用促進を目的とした平成28年度地域課題解決プロジェクト「三陸鉄道の有効利用：さんてつで学ぶ地域の魅力」の中心的スタッフとしてプロジェクトを牽引しました。

さらに平成29年度には上記の活動を知った(株)イトーヨーカ堂様からお声掛けいただき、イトーヨーカドーアリオ葛西店を会場にした「東北かけはしプロジェクト」に参加。三陸鉄道の中村社長とともに会場内に設置されたステージに登壇し、これまでの活動や三陸鉄道のPRを行いました。

大宮さんは、中核的人材の認定が決まった後も、同プロジェクトの中心的スタッフとして活動を継続しており、現在は後継者の育成に注力されています。

いわて高等教育コンソーシアムでは、地域の中核を担う人材の育成に向け「地域リーダー育成プログラム」を継続することとしています。



認定者(大宮美緒さん)といわて高等教育コンソーシアム連携校の学長、校長及び所長

実践的な講義と地域課題解決プロジェクトへの参加は、ボランティアや復興、地域に対する私の価値観を大きく変えました。活動を四年間積極的に続けられたのは、地域のよりよい未来を真剣に考える人たちとの出会い、そして広がっていく人の輪があったからです。難しい問題にあたっても楽しい活動にしたいという思いがありました。三陸沿岸地域に直接足を運ぶたび、そこには災害の傷跡だけではなく、人やお店、自然、文化…様々な地域独自の魅力がありました。現地に行かなければ知ることの出来なかった発見です。その魅力を多くの人に伝えたいと強く思います。また活動で得た、自分で見る・聞く・考えるという姿勢はずっと大切にしていきたいです。

岩手大学農学部 農学生命課程 生物産業科学コース 4年　大宮 美緒

地域課題解決プロジェクト
さんてつ活用推進チーム

「さんてつ活用推進チーム」は、いわて高等教育コンソーシアム地域課題解決プロジェクトの一環として、平成28年度から活動を続けています。

今年度は、三陸鉄道北リアス線のうち、未調査であった島越駅-宮古駅間の魅力再発見MAPを作成するため、6月30日に当該区間の現地視察を行いました。実際に各駅周辺を歩きながら、駅周辺の隠れた魅力スポットを探してまわりました。調査中は地元の方から声をかけてもらう場面もあり、震災当時の貴重なお話を聞くこともできました。

また、9月27日には宮古駅周辺で「三陸鉄道に関するアンケート」調査を実施し、実際に三陸鉄道を利用している地元の方々から新たな企画列車等に関するアイデアをいただくことが出来ました。「さんてつ活用推進チーム」では、これらのご意見を参考に新しい企画列車を実現するため、現在、鋭意企画中です。

さらに今年は新メンバーも11名加入しました。パワーアップした「さんてつ活用推進チーム」の活動にどうぞご期待ください。

6月30日佐羽根駅にて

地域課題解決プロジェクト
西和賀地区活動

岩手県西和賀をフィールドとした地域課題解決プロジェクト「地域創成～いつまでも住み続けたいと思うまちづくり～」は平成29年より活動を開始し、西和賀地区の魅力を発見・発信するための活動を継続しています。

今年度は主に、「西和賀地区の魅力を発信する動画作成」を目的として活動しています。西和賀地区の魅力を発見するため、7月21日、22日には西和賀地域の視察、地元住民の方々へのアンケート調査（スーパーオセン様にご協力をいただきました）を実施しました。また、8月25日には秀衡街道、鷲之巣金山についての現地調査及びドローンを利用した湯田貯砂ダム動画撮影を行いました。

西和賀地区の魅力をたくさんの方々に知ってもらえるよう、動画の完成に向け今後も活動を継続しく予定です。なお、現在さわや書店様から共同企画のお声がけをいただいており、今後、動画作成と並行して「旧旅館建物を活用した本による場づくり・コミュニティーづくり」にも取り組んでいく予定です。

ミーティングの様子

「地場産業・企業論/企業研究」

「地場産業・企業研究」は、岩手県内の大学による共通授業として、岩手大学及び岩手県立大学が主務校となり実施し、平成28年度からは、地域リーダー育成プログラムのコア科目として開講し今回が3回目の開講となります。

地域企業の現状、可能性、課題、解決策を探ることを狙いとし、5月9日(水) から7月18日(水) まで15回開講しました。(履修登録者17名・単位修得者17名。参加学生:岩手大学、岩手県立大学の2校)。

地域企業を取り巻く外部環境を「経済」「産業」「政策」「中小企業」に分けて、それぞれの分野から外部講師を招いて解説していただいたうえで、調査分析手法として「SWOT分析」について学びました。

さらに、受講生の意向を踏まえて調査対象業界と調査対象企業を抽出して調査対象企業についての訪問前の事前学習を行い、準備後には、企業現場を訪問し業務内容を調査しています。

グループワークとして、地域企業の問題点や課題の分析を行ったうえで、プレゼンテーションを行なっております。

なお、授業は主にアイーナキャンパスで、水曜日に行っております。

参加した学生からは、「SWOT分析」について学べて良かったという意見が多かった他、他の実習の授業より実践的であり、貴重な経験を得るところがたくさんあったとのという意見が寄せられました。ただし、SWOT分析から企業向けのプレゼンまでの期間が短く、時間が足りなかったという意見も複数あり、次年度の課題も顕在化しました。

企業訪問先での記念撮影

前期集中講義「いわて学」

「いわて学Ⅰ」は、岩手県内の大学による共通授業として、岩手県立大学が主務校となり平成22年度から開講しています (9年目)。平成30年度前期は、八幡平地域の自然環境等の地域特性に焦点をあて、『八幡平から知るいわて』をテーマとして、6月2日(土) から6月10日 (日) までの間で集中講義を開催しました。

岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学の3校から履修登録があり、履修登録者数は52名、うち単位取得者は46名でした。

講義については、前半で岩手県全体の自然等について、森林総合研究所の研究者、岩手県の職員等による講義、後半では、岩手県職員、商工会等の講師陣により松尾鉱山の鉱毒問題、地熱開発、安比観光開発等の八幡平地域の現状について理解を深めたのち、バスを使用し、2コースで現地講義を行ないました。最終日は若手で活躍されているサラダファームの田村部長、ジオファーム八幡平代表の舟橋氏からこれからの八幡平について熱く語っていただきました。短期集中ではありましたが、学生が岩手を考えるきっかけが得られたのではないかと考えています。

岩手県立大で行われた講義の様子

グローカル基礎研修「平泉の世界」

グローカル基礎研修「平泉の世界」は、平泉を広い視野から捉えることを目的としており、本年度は8月16日 (木) から19日 (日) に実施しました。受講者は21名 (岩手大学生16名、盛岡大学生4名、岩手県立大学生1名:うち留学生2名) でした。最初の2日間は基礎知識を得るため、「歴史学」「考古学」「民俗学」の観点から平泉について学びました。3日目は5グループに分かれ、中尊寺・毛越寺・無量光院跡・柳之御所跡について、これまでの学習成果をふまえて文献調査を行い、現地でのプレゼンテーションの準備に取り組みました。

最終日には伊藤博幸平泉文化研究センター客員教授の案内のもと、現地見学を行い、見学先各所で、グループワークの調査内容について発表しました。受講者全員が、講義・グループワーク・現地見学及びプレゼンテーションに熱心に取り組み、とても充実した内容の講義となりました。

柳之御所史跡公園にて

前期集中講義「ボランティアとリーダーシップ」

「ボランティアとリーダーシップ」は、ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割や組織の動かし方等に関する講義や実習を通じ、様々な状況に対応し得る能力と知見を修得することを目的に始まった特別講義です。今年度の履修学生は25名でした。

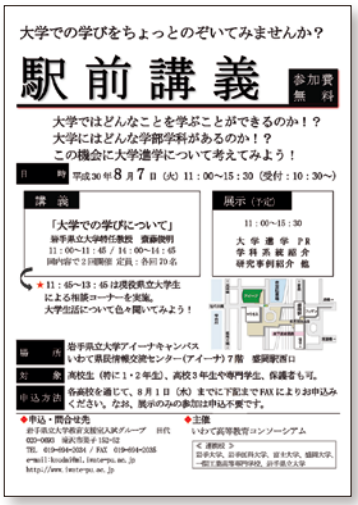
初日は岩手県立大学アイーナキャンパスを会場に長崎県立大学西村千尋先生による「コミュニケーショントレーニング」の講義から始まり、二日目、四天王寺大学吉田祐一郎先生による「ボランティア活動」の講義と岩手大学後藤尚人先生による「リーダーシップ」の講義が行われました。

三日目からは、山田町の岩手県立陸中海岸青少年の家で2泊3日の合宿を行い、コミュニケーション能力、フォロワーシップの必要性等を学ぶ「グループワーク」と実践の場としての「ボランティア実習」を行いました。昨年度に続き「ボランティア実習」では山田町の秋祭り「山田八幡宮神幸祭」に「川向十二支会」の一員として参加し、地域の方々の祭りにかける思いを感じつつ、祭りを盛り上げるため、疲労に耐えながら重い十二支像を掲げ続けました。

今年度は、昨年度に比べ合宿日数が一日短いスケジュールでしたが、昨年度に負けず非常に充実した内容となり、参加学生の成長が大いに感じられる講義となりました。参加した学生の今後のさらなる成長のきっかけになることを期待します。

「山田八幡宮神幸祭」における十二支巡行

駅前講義
「大学での学びをちょっと覗いてみませんか?」


大学での学びをちょっとのぞいてみませんか?

駅前講義 参加費無料

大学ではどんなことを学ぶことができるのか!?
大学にはどんな学部学科があるのか!?
この機会に大学進学について考えてみよう!

日時 平成30年8月7日(火) 11:00~15:30(受付:10:30~)

講義
「大学での学びについて」
岩手県立大学特任教授 齋藤俊明
11:00~11:45 / 14:00~14:45
内容:2回開催 定員:各回20名

★11:45~13:45は現役県立大学生による相談コーナーを実施。大学生活について色々聞いてみよう!

展示(予定)
11:00~15:30
大学進学PR
学科系統紹介
研究事例紹介 他

場所 岩手県立大学アイーナキャンパス
いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 盛岡駅西口

対象 高校生(特に1・2年生)、高校3年生や専門学生、保護者も可。

申込方法 各高校を通じて、8月1日(水)までに下記までFAXによりお申込みください。なお、展示のみの参加は申込不要です。

◆申込・問合せ先
岩手県立大学教育支援室入試グループ 担当
020-0693 滝沢市巣子152-82
TEL. 019-694-2034 / FAX. 019-694-2035
email: kouda@iwu.iwuniv.ac.jp
http://www.iwuniv.ac.jp

◆主催
いわて高等教育コンソーシアム
<連携校>
岩手大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、一関工業高等専門学校、放送大学岩手県センター

8月7日(火)、岩手県立大学アイーナキャンパス(盛岡駅西口)において、県内高校生の進学意識の向上を目的とする「駅前講義」を開催しました。

講義では、「100年後の未来から今を考える」と題して、岩手県立大学齋藤俊明特任教授から、未来を意識しながら、そのために大学でどのような力を身に着けるべきか等について、人口減少やAI社会の到来を交えてお話がありました。県内の高校生等39名が参加し、「将来の進路選択の参考になった」「高校からの大学の説明と異なった視点から説明されたことで大学進学への気持ちがより強くなった」等の感想が寄せられました。

また、講義の他に、大学進学のPRや県内各大学の紹介展示、大学生による相談対応も実施しました。参加者は各大学の大学案内や大学生活の展示を熱心に見学していました。

齋藤特任教授による講義

展示会場の様子

岩手医科大学「全人的医療基礎講義」

岩手医科大学では、9月14日(金)に、岩手医科大学客員教授で参院議員の川田龍平先生を講師にお招きし、全人的医療基礎講義「薬害を考える―いのちが守られる社会の実現のために―」を行いました。

この講義は、専門職連携教育の一環の講義で、医学・歯学・薬学・看護学を志す学生に共通して求められる人間性を養い、幅広い教養を身につけることを目的とし、岩手医科大学の1年生全員が聴講しました。聴講した学生からは、「自分と変わらない19歳という若さで薬害エイズ被害者として実名を公表して厚労省に謝罪を求めた行動力に驚いた。」「薬害再発防止に向けて、精力的に活動していらっしゃるご様子を目の当たりにし、薬害が二度と起こらないようにするために医療人として自分に何ができるのかを深く考えさせられた。」などの感想が聞かれました。

川田龍平先生による講義

会場の様子

FD・SD研修会「テキストマイニング入門」

いわて高等教育コンソーシアムFD・SD連携推進委員会では、8月31日に東北大学の松河秀哉先生をお招きして「アンケートの自由記述を分析する:テキストマイニング入門」を開催しました。今回は、5つの大学から50名ほどの参加者があり、会場は熱気があふれていました。

研修では、授業アンケートの自由記述分析の手法の1つである「トピックモデル」の紹介の後、形態素解析ウェブアプリUniDic-MeCabとエクセルを用いて、テキストマイニングの最も基本的な作業である形態素解析と、頻出単語の$\chi 2$検定による比較等を行いました。実習中に、UniDic-MeCabのサイトが動かなくなるトラブルがありましたが、参加者の機転に助けられ、全員が無事に作業を実施することができました。

今回のテキストマイニングのように、一部には大変高いニーズがあるけれども万人向けではないテーマについては、コンソの枠組みを用いて共同で開催するメリットが活かせていると感じました。参加者のみなさま、どうもありがとうございました。

研修会の様子

発行連絡先	いわて高等教育コンソーシアム事務局 (岩手大学総務部総務広報課内) 〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8 TEL.019-621-6855　FAX.019-621-6014 [E-mail]ihatov5@iwate-u.ac.jp　[URL]http://www.ihatov-u.jp/	構成校	岩手大学 岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部・ 岩手県立大学宮古短期大学部 岩手医科大学 富士大学 盛岡大学・盛岡大学短期大学部 放送大学岩手学習センター 一関工業高等専門学校

平成30年10月12日発行